

# 小金井公園の裏方を楽しむ

小金井公園 樹木の会 中島三晶

## I. はじめに

2022年10月、思いがけず「都市緑化及び都市公園等整備・保全・美化運動における都市緑化功労者」の感謝状をいただき“しょうじき”驚いている。われわれ樹木の会は、都立小金井公園で来園者が樹木を楽しめるようお手伝いするのが目的の集まりだ。主役は公園の樹木たち、われわれは、主役小金井公園の引き立て役の裏方仕事で楽しみで活動している。今までの樹木の会の裏方仕事を振り返りながら、小金井公園の樹木たちの素晴らしさが伝われば“さいわい”と鉛筆をなめてみた。

## II. 主役 都立小金井公園について

### 1. 小金井公園のなりたち

1930年東京府は「紀元2600年記念事業」の大緑地造成計画を決定。翌年、軍当局立ち合いのもとに91haの防空緑地の収用を終えた。荒っぽい交渉、後年にしこりを残すこととなった。戦時下であり、緑地の整地は学徒動員による勤労報告隊によって行われた。このとき、西側に光華殿（今の江戸東京たてもの園ビジターセンター）が移築され東側は国民錬成所として利用された。整地とは名ばかり、実際は雑草とりの毎日だったらしい。戦局厳しく食糧事情解消のため1943年大緑地増産協力臨時処置要綱が定められ、近在農家組合に農地に適した土地を貸し付け、代償として農産物受け取りの契約を結ぶなどして戦時をしのいでいる。

終戦後の大波は「農地改革」、従来の地主・不在地主を解体、小作農すべてを自作農に切替えの号令、地方自治体が管理している農地は、地主不在として農地買い上げの対象となった。農民にしてみれば戦前収用時のしこりが残っており、改革には大賛成、はげしい解放促進の運動が起きたのである。1948年東京都は光華殿周辺以外の農地の解放にふみきり、翌年終了した。農地に適さない土地は戦災復興用の苗木育成のための苗圃として利用され、いまま名残の樹木が園内にそびえている。光華殿を武蔵野郷土館と衣替えし、緑地の名を外し1954年「小金井公園」が誕生した。戦後の日本経済の回復は東京都の財政事情も好転させ、都は用地特別会計制度にもとづく公園の計画地内の農地の買収を再開、農家の理解を得ながら買収し、名実ともに「小金井大公園」となり、いまま公園整備は続いている。

### 2.楽しむには歩くのが一番

小金井公園はとても広くて大きく、東京ドーム17個がすっぽり収まってしまうほどだ。園内は、武蔵野そのままのケヤキ・コナラの林、西洋風ユリノキ、真っ白い花のコブシ・ハクウンボク、萌えるクスノキ、燃えるモミジ、武蔵野には珍しいユーカリノキ・シマサルスベリ…、200種類15,000本ほどの樹木がわれわれを楽しませてくれる。

公園は散策路が縦横に走り、大人も子どももジョギング・ウォーキング・サイクリング等、自分のスタイルで楽しんでいる。でも、なんとと言っても楽しみ方の一番は、目の前のこの木は何という木なのか、知りたい＝「この木なんの木？」に出遭うことである。それには歩きまわるのが一番。散策路だけでなく小路を、林の中に気ままに踏みこんでみることだ。いつ来ても「この木なんの木？」の面白さ・楽しさ、小金井公園ならではの魅力といえる。

### Ⅲ. 裏方 裏方仕事

#### 1. “樹木ウォーキングマップ”をつくる

小金井公園の魅力にとりつかれた人たちが自然発生的に集まり、みんなで「この木なんの木？」を楽しもうと始めたのが、今から20年近く前の2003年の夏。そして自分達だけでなく公園に来られた方々にもこの魅力を知ってもらおうと“樹木ウォーキングマップ”を作り、小金井公園管理所に持ち込み申請したのがその年の秋。それが「小金井公園・樹木の会」の始まりであり、今日の活動につながっている。

最初のマップ作りは大変な苦労だったらしい。公園全体の広場・施設・散策路・トイレの位置を手書きで描いて一枚の地図を作り、それに季節の見ごろの樹木名タイプ打ちの紙札を樹木の位置に切り貼りして完成させた。出来たマップはいかにも“手作り”を感じさせる素朴なもの、却ってこれが来園者に喜ばれているから面白いものだ。この作成手法はつい最近まで受け継がれてきたが、2012年の春からは電子化され、図1のマップになっている。

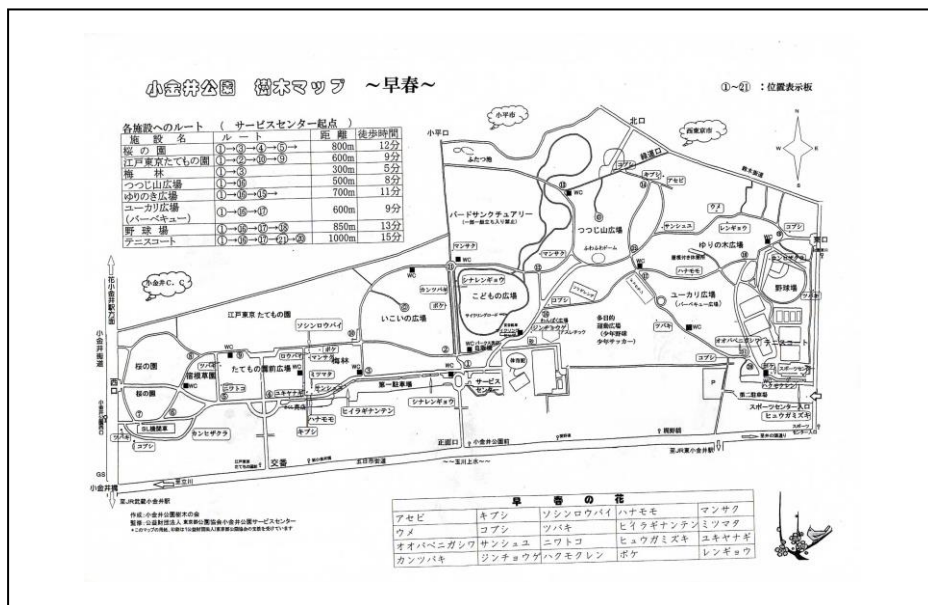


図1 樹木ウォーキングマップ 2021年「早春」バージョン

この“樹木ウォーキングマップ”がもとになり、公園に提案ができ、採用されたのは嬉しい成果である。そのひとつは、園内の位置表示看板の設置だ。広大な小金井公園、見たい樹木に辿りつくのは来園者にはなかなかやっかいなこと。そこで園内の要所・要所に位置表示

看板を設置し、番号をたよりに進めば最短で目的地に到着できるというもの、それを分かりやすく明記した。さらに目的地までの距離を実際に歩測し書き入れてある。マップは少しずつ進化しているのである。

## 2. 裏方 樹木の会について

“歩くマップ”を作ろうと集まった仲間は林洋右さん（初代会長・今は引退されている）をはじめわずか4人、2002年8月のことであった。その年の秋には“樹木ウォーキングマップ秋バージョン”を作成、公園入口の案内板に取り付けたのが最初の活動、翌年2月に第一回うめまつりが開催、梅林の名札取り付けに参加している。この夏8月7日「樹木の会」は正式に発足、会員8名であったそうだ。この頃は忙しで、“見どころ樹木30選”“情報ボックス8ヶ所設置とマップ配布”“樹名板の取り付け開始”“樹木探索開始”等、今の樹木会の基本活動が始められている。

2004年4月に第一回総会が開かれ、規約も決められた。規約第2条「樹木に興味を持ち、会員相互楽しく学習し、公園の樹木に関する情報を来園者へ提供する…」の基本理念はわれわれの誇りになっている。2007年「公園友の会」に登録した。もともと自然発生的な集まりで、会員がそれぞれの持ち味を出しながらの樹木の会、「われわれの主体性が失わなければOK…」と総会で承認された経緯がある。こうして趣味活動からボランティア活動へと会の体質を変えてきたのである。現在、会員数は25名を出たり引込んだり、自分のできる範囲で無理なくワイワイガヤガヤとやっている。2011年、2021年の2度、東京都公園協会賞奨励賞をいただいたことも活動の励みになっている。

## 3. 裏方仕事

われわれ裏方の仕事は、(1) 樹木ウォーキングマップ・樹名板の作成・管理 (2) 樹木の講習会・研修会 (3) 公園ガイド・園内イベントへの参加 (4) 他・目標達成のためなら何でも、の4項目、われわれも楽しい・来園者も楽しんでいることが大前提、このことを目標に活動に取り組んでいる。

### (1) 樹木ウォーキングマップ・樹名板の作成・管理

「この木なんの木？」を楽しむには“樹木ウォーキングマップ”があつてこそ、しかも正確なことが絶対条件。それに季節はずれではなんの意味もない。今は「早春」バージョンだが春の足音を気にしながら「春」バージョンに移り、梅雨空を眺めながら「夏」、虫の音を気にしながら「秋」へと情報ボックスのマップを差し替えている。

公園に来られた方は「今はなんの木の花が見ごろ？」「その木はどこにあるの？」が最大の関心事。このマップで「一目瞭然！」のはずだが、それがなかなか難しい。とにかくまずは樹木マップを手にとってもらうのがわれわれの願い。樹木マップを一所懸命に眺めている来園者に“つい”声をかけてしまうのが、樹木の会会員のサガなのだ。

小金井の桜はつとに有名、樹木の会に「桜はどうなの？」の質問がよく来る。たしかにクラは樹木なのだが、小金井公園にはきちんと教育を受けた「桜守の会」の方々が小金井の桜を守っている。桜はすべて桜守の会におまかせということで、小金井の桜は来園者に喜ばれているのである。

## (2) 樹木の講習会・研修会

われわれは「この木なんの木？」を楽しむのを目的としているが、そのアプローチは一人ひとり違っている。樹木の分類学的差異に興味を持つ人、とにかく園内にどんな樹木があるのか知りたい人、樹木と人間との関わり合いに興味を持つ人等々、楽しみの向きは会員の間でも様々だ。だから面白いのだが、ではお互いに勉強しようじゃないかと会員相互の研修会を月例で持っている。この面白さを来園者にもということ、春と秋に、来園者向け観察会を開いている。樹木案内人の個性が観察会のガイドに表れ毎回好評。参加者が年々増えているのが嬉しい。

### 【トピックス 樹木観察会 2022年秋】

2022年11月22日、一般来園者向け樹木観察会は、コロナ禍で3年ぶりの開催だ。いつもの年より美しい紅葉・黄葉の樹木たち、絶好の天気にも恵まれ、過去最高の参加者数。「やってよかった」のアンケートの声がうれしい。樹木の会に集まってきた諸先輩たちがはじめた樹木観察会、参加者と小金井公園サービスセンターと樹木の会がつくりあげてきた。公園の樹木はかわっていく、われわれ人間もかわっていく。が、この樹木観察会は「かわらず やり続けていく」がわれわれの支えなのだ。

## (3) 公園ガイド・園内イベントへの参加

樹木の会が気持ちよくやっていけるのは東京都公園協会と小金井公園サービスセンターの実務者のおかげと心から感謝している。20年前の第一回のうめまつりから、コスモスまつり等のイベントには協調の精神で参加している。樹木の会中心のクラフト教室・葉脈しおり作りは好評、参加者はいつも満員御礼状態だ。子どもたちの輝く顔と熱中する親御さんの姿がわれわれに力を与えてくれる。

## IV. 「この木なんの木？」東西コースの新設

小金井公園 グリーンアドベンチャー「この木なんの木？」は、2005年のコース設定以来多くの来園者に楽しまれている。今まで、樹木の老朽化や台風・大風に因る立ち枯れ・倒木等の変化に、コース・観察樹木を最小限に変更して対応してきたが、既設コースだけでは来園者の満足をえられるのは限界と感じていた。また小金井公園の拡張・整備が進み、新しい樹木も植栽され、小金井公園の魅力がどんどん増してきて、この魅力を来園者に伝える「この木なんの木？」新コースを設定しようとの声が、樹木の会内外であがった。これを受け8

年前に準備活動を始め、コロナ禍のなか 2020 年 東西 2 コース（後掲 図 3 参照）の設定が完成、来園者に案内できたことは樹木の会全員の喜びである。

## 1. 基礎資料「小金井公園区画別樹木マップ」の作成

- ①樹木観察会（春・秋 年 2 回一般に呼びかけて行う）参加者アンケートの分析
- ②「この木なんの木？」マップ（年間 6000 枚配布）消費状況を分析
- ③小金井公園内の全樹木の配置を調べる「毎木調査」

\* この作業は探索部会を中心にまとめ、調査は園内の樹木の確認から始めた。

基本台帳は古いので、台帳と樹木の位置をつきあわせる地道な作業、マップ（図 2 参照）ができるまで 3 年有余を要した。探索部会はメンバーが変わりながらも辛抱強く活動した。

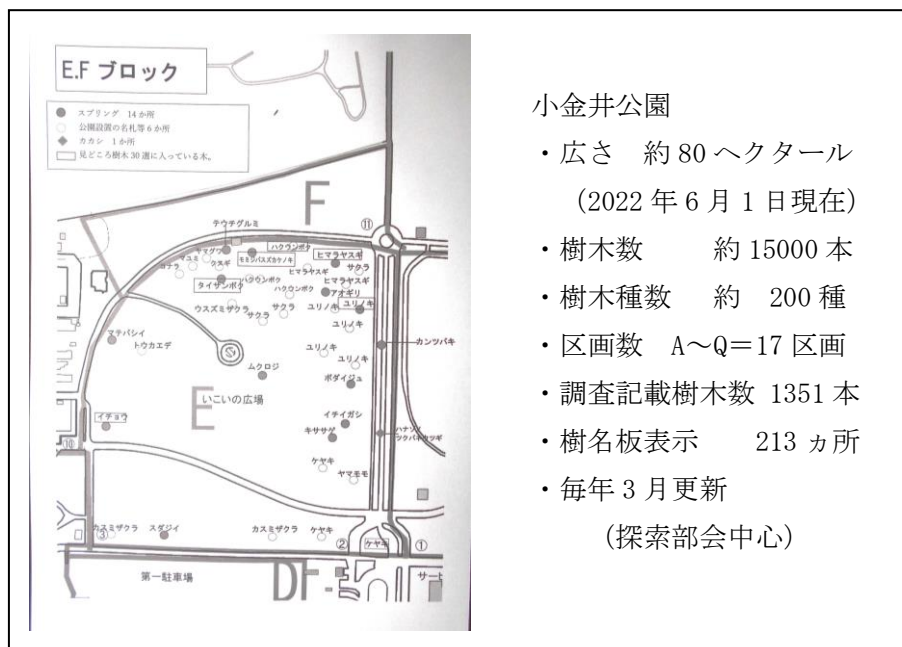


図 2 小金井公園区画別樹木マップ台帳 2021 年度版

## 2. 「この木なんの木？」新コースの決定・告知・開始

- ①基礎資料を基に新コース具体化の検討（ふさわしい樹木の選定、コースの検討）
- ②新コース「東西 2 コース案」全会員による検討 「東西 2 コース案」承認 於定例会
- ③新コース、新樹木の勉強会 「コロナ禍」の中の開設準備
- ④樹木にナンバープレート付け作業完了 東西コース案内プリント 完成 3000 枚
- ⑤小金井公園サービスセンターの協力 絶大・感謝  
情報ボックスの整備 ホームページへの掲載
- ⑥2020 年 12 月 「この木なんの木？」新コース スタート（図 3）



樹木ナンバープレート付け作業



情報ボックス

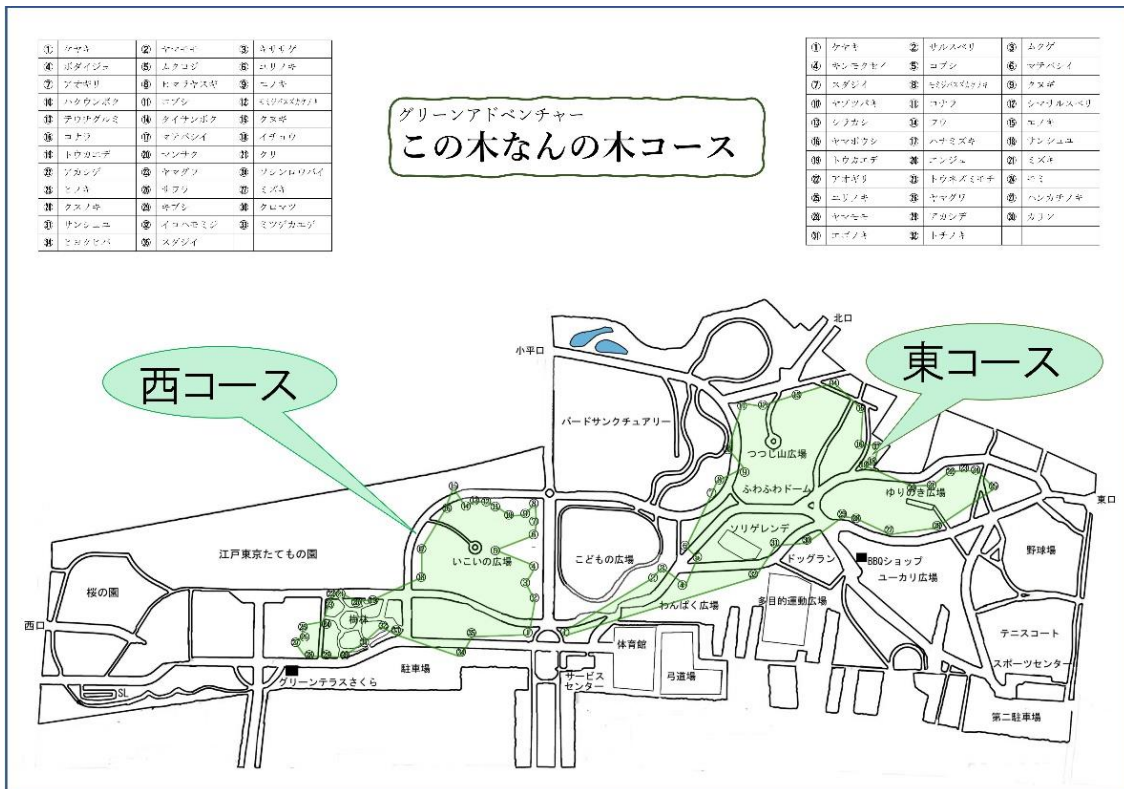


図3 グリーンアドベンチャー「この木なんの木？」コース

西コース 35 樹木 一周 1.8 km      東コース 32 樹木 一周 2.5 km

\*5年間の裏方仕事がこの図に集約されている。

### 3. “魅力的な樹木たち”

裏方仕事の中で出会った魅力的な樹木のエピソードを紹介したい。

#### 【摩訶不思議なハンカチノキ】

東コース 27 番のハンカチノキ、開園 50 周年記念に植えられた。何が合わなかったか、数年で枯れてしまった。すぐ次が植えられたが、2代目も弱々しく、ひこばえばかり。これも駄目かな…それが6年前の秋に1輪だけ咲き、みんな大喜び、がそれっきり。心優しき我ら「いつかは、きっと」と待っている。

### 【おれは生きるぞ ミズキ】

西コース 27 番のミズキ、初夏にたくさんの白い蝶が舞った。木は葉脈だけが残る無惨な姿となった。蝶と見えたのはキアシドクガという蛾。その幼虫がミズキの葉だけを食い散らす。白い悪魔が去って ほどなく新芽が吹き、ミズキは優雅な立ち姿にもどり復活した。

### 【番外地 ウメ「武蔵野」】

西コース内の梅林にはウメが 90 本ほど。12 年前、武蔵野の地にふさわしいウメ「武蔵野」が植えられた。が、開いた花はナント「鴛鴦(えんおう)」。いつかは「武蔵野」を、が会員の夢となっていた。昨年、東京都の公園協会賞頂戴記念に「武蔵野」をと衆議一決、いま植木屋さんに育成をお願いしている。梅林に「武蔵野」の花を…樹木の会の夢が続いている。

### 【番外地 ユーカリノキ】

公園の東側のユーカリ広場、なぜ ユーカリ広場か？ 広場の東端にユーカリノキの巨木が周りを睥睨(へいげい)しているからの由縁らしい。なぜここにユーカリノキが立っているのか不思議だが、実は地主だった造園家が農地を売却するとき、記念に苗木を 2 本植えたのである。10 年前にはもう 1 本あったがいつのころか根元からバツサリ。Only One のこのユーカリノキ、樹齢は不明。見守りつづけることが裏方の大切な仕事となっている。

## V. おわりに 裏方のおもい

小金井公園はなんといっても「多様性」の楽しみである。なぜ、ここにこんな樹木が立っているのか、なぜこんなにたくさんの種類の樹木があるのか。もちろん大むかしからの自生樹木も多いが、先人が生活を営むための農地として、全国の公園の苗木育成のために植えた樹々が、3/4 世紀経たいま、堂々と亭々と立っていて、それが小金井公園らしさのもとになっている。その多様性を観察し楽しみに来園する方々がとても多いのである。

樹木は生き物だ。いま新芽を出し空にむかって伸びようとする若い樹木、役割を果たし枯れて静かに命を終えようとしている樹木もある。樹木は生命をまっとうしようとするとき、次の世代の若い息吹を残そうとするのが、自然の摂理。が、自然はきびしく次世代の成長はままならない。やはり人間の手助けが必要、そこにわれわれ樹木の会の存在価値と意義があると自負している。小金井公園の全体の樹々のバランスを考え、いままでの植生の歴史を考え、次世代の来園者たちの楽しみを想像し、小金井公園サービスセンターのお手伝いをするのが、樹木の会の役割と考え行動している。

気をつけていることがある。それは、樹名板もナンバープレートも来園者の目にウザくならないようにさりげなく設置すること、これ見よがしの案内はご法度だ。来園者が「この木何の木？」と知りたくなったとき、さりげなく表示されている、が最高の案内と心がけている。小金井公園に集まる人々が、公園の多様さに素晴らしさを感じていただけるのが、樹木の会全員の真の目的であり、活動が 20 年間も続いた原動力となっている。

\*参考文献 北村信正他 小金井公園 東京都公園協会 1995 年